



神戸市の工場分布と従業員の通勤状況

在本， 静子

(Citation)

兵庫地理, 1:7-9

(Issue Date)

1948-04-30

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90002190>



神戸市の工場分布と従業員の通勤状況

在 本 静 子

これまでの教師中心、教科書中心の教育を生徒の社会実態調査に飛躍させ、生徒自らの手で何かを発見させようと左記の要領により工場調査を実施した。

一、神戸市の工場分布と従業員調査の目的を生徒に示す。

一、かくて第五学年一組生徒四十五名を七班に分ち、一班で一廠の工場を責任を持つて出来るだけ詳しく調査することにした。

一、昭和二十二年八月より十一月までの間に生徒は各自で都合のよい日を選んで工場を調査し、一學級で千時間ばかりを費やして一まづこの仕事を完成した。

神戸市は國際貿易港であると共に、工業都市としての性格を有してゐる。昭和二十二年十月の人口調査を基準にして其の有職人口に對する各職業別の割合を記すと左記の通りである。

十歳以上の有職男子について調査

工 業 三二・二二% 建設工業 七・九〇% 商 業 一六・六九%

交通 一・七九% 公務自由業 九・七〇%

十歳以上の男子無職者は全人口の五四・三三%である。この割合をみても神戸市の工業の重要性を把握することが出来る。

(一) 工場 分布

全工場数は五四八で、そのうち金属工業は全額の二五%、機械工業二二・四四%、化学工業一一・九六%、その他電機工業、窯業、紡績、製粉、食料品、印刷業等あり。各種の工業が二戦前後の程度で分布してゐる。又製材業の進出も目立つてゐる。

(二) 工場 数

長田區四五・二三%、兵庫區二三・六七%、神戸市工場の七〇%近くが長田と兵庫に集中してゐることは注意すべきことである。

(三) 従業員数による工場分類

従業員五〇人以下七八・八八%、五〇—一〇〇人一四・四四%、神戸市の工場の大部分は五〇人以下の従業員をもつもので、従業員千人以上は数工場にすぎない。兵庫區の工場には全従業員の四五・七五%があつまり、長田區の工場には一九・九九%の従業員があつまつてゐる。従つて大工場は兵庫區に多く、長田區には家内工業式の小工場多きことと洞察できる。戦前は灘區に工場多かりしもまた復興をそきためかこの調査では少きことも分る。

(四) 従業員の通勤状況

調査した四十五工場の従業員の通勤地分布圖をつくり、次のような面白い事柄を発見した。これ

によると従業員の五四・二三%は三〇分以内で通勤可能の地に住つてゐる。三十分より一時間内に通勤してゐる従業員は三六・六%で、一時間以上を要する地点からの通勤は少い。しかして通勤者は工場を中心に南北よりも東西に多く分布し、其の通勤時間も東西は南北に比較すれば距離の割合に時間を費さない。且大合社へは大阪府下、姫路市等遠距離から相當の人が通勤し、小合社では多く工場を中心に従業員が分布してゐる。これらの原因についてもあらゆる角度から考察すると面白い。この研究は未完成なので、又折をみて完成するつもりである。

最後に紙面をかりましてこの調査ならびに研究にあたりまして、色々お心遣ひ賜はりました方々に厚う御禮申し上げます。(筆者—縣立第二神戸高女教員、本會委員—二月二十四日發表)